

## 第6 A (小) 分科会 一副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題―

提案主題 協働意識の高揚を目指した職員室経営案の作成と実践  
～多忙感を充実感に変えるために～

司会者	由布市立由布院小学校	阿部 尚志
提言者	由布市立塚原小学校	小野 大介
助言者	大分教育事務所次長兼指導課長	阿部 宰士
記録者	由布市立川西小学校	長尾 喜恵美

### 1 協議の柱

職員室の中の協働体制のあり方 ～若手・ミドルリーダーの育成～

### 2 協議の実際（内容）

#### (1) 質疑・応答から

- ・学校行事等で子どもの成長を実感できたときに充実感の達成を味わうことができている。
- ・職員室経営案において達成指標の数値化は、自己申告シートと連動している。

#### (2) グループ討議から

- ・交換やローテーション授業等で全職員が学校の課題を共通化し、成果を共有している。
- ・若手を集めた勉強会や学年部で支える体制で本音や悩みを聞き、組織的に対応している。
- ・若手の指導力向上のために組織的に対応する体制をとり、具体的に指示してあげる。
- ・互見授業や授業観察の充実とミドルリーダーと一緒に校内外授業研を支えている。
- ・ミドルリーダーには具体的取組を考えさせ、分掌会議では若手の育成も任せている。
- ・組織を作ってミドルリーダーに任せ、アンケートでよい結果を意欲に繋いでいる。

### 3 指導助言

- ・協働意識の高揚によって、多忙感よりも充実感をより多く味わえるよう、由布市教頭会では「職員室経営案」を作成し実践している。「職員室経営案」の書きぶりは学校によって様々であるが、「職員室経営案」＝「教頭行動計画案」ではなく、「職員室経営案」⇒「教頭行動計画案」になるべきである。
- ・「職員室経営案」を作成するうえで、教頭の立場として「職員室内外にどのような仕掛けを用意してどのような動きを仕組んでいくのか」そのために「教職員一人ひとりに、どのような体験や気づきを味わわせるか、教職員間にどのような関係性を構築するのか、教職員集団にどのような組織としての意識をもたせるのか」をねらいとしてもっておく必要がある。そして、これらを踏まえた上で、方途＜取組指標＞と到達像＜達成指標＞を明確に設定していくことが大切である。
- ・文書事務の負担感は「文書事務・管理の本旨」の理解促進によって、校務分掌や授業時数の負担感は「学校・学年の組織的フォロー」を担保として、また、子ども・保護者対応の負担感は「学校・学年の組織的対応」の確立によって軽くしていくことが重要である。